

「温かな心」のバトンタッチ

皆さん、おはようございます。今日は、最近、校長先生がとっても嬉しかったこととお話ししたいと思います。今日は放送でお話します。いつものように、校長先生の顔も見えませんが、画面もないので、耳だけの勝負です。よく聞いてどんな話か、しっかりと聞き取って下さい。今日の話の題は、「温かな心」のバトンタッチです。

1月の終わりに、長野市で会議があり、校長先生は学校を留守にしていました。夕方、会議が終わり、学校に戻ろうとしたら、教頭先生から次のような電話が届きました。

校長先生、嬉しい報告が一つあります。地域の小山さんとおっしゃる方で、社会福祉協議会でお年寄りのボランティアをされてる女性の方が、今日学校に来られました。

おとといの夕方4時半ごろ、お世話をしているお年寄りのお宅から、ゴミ袋を4つ持ち出していたところ、通りかかった6年生の女の子二人が、その様子を見て、自分から申し出てゴミ袋を運ぶ手伝いをしてくれたそうです。今までにそのような経験をしたことがなく、とても嬉しくて、どうしてもそのことを伝えたいと、わざわざ学校に来てくださいました。

電話で、そのお話しを聞いた私も、とても嬉しくなって、もう一度、教頭先生に、次のように尋ねました。「電話でそのことを学校に伝えていただいたのではなくて、学校に小山さんは、わざわざ来て下さったんですね。」

教頭先生は、電話の向こうで、笑顔で「はい、そうです。」と答えて下さいました。私は、なんだか温かな、とても嬉しい気持ちになって、会議から学校にもどってきました。

ボランティアでお年寄りのお世話をしている小山さんの「温かな心」が、地域のお年寄りの生活を支えている。その小山さんの、ゴミ袋を4つ持った姿を見て、「ああ、大変そうだなあ。お手伝いをしよう。」と自ら申し出て、「温かな心」を「温かな行為」で表してくれた6年生二人のお友達。その二人のお友達の温かな行為が、嬉しくて嬉しくて、わざわざ学校に伝えに来て下さった小山さんの「温かな心」。

「温かな心」が「温かな行為」となってバトンタッチされて、校長先生も嬉しくて、どうしても旭ヶ丘小学校の皆さんにお伝えしたいと思い、今日、皆さんにお伝えしています。

2月の生活のめあては、「自分の気持ちや考えを伝えよう」でしたね。卒業式を間近にひかえ、感謝やお別れや友達を大切にすることを、しっかりと言葉で伝える。自分の中にある「温かな心」を、「温かな行為・行動」で伝える。1月の生活のめあてのように、明るくあいさつで伝える。「伝え方」は言葉や行為、あいさつ等いろいろあると思います。

3学期の始業式で、「物事を完成させる最後の大切な仕上げ」という意味で、「画龍点睛」と言うお話しをしました。

今年度の「画龍点睛」、最後の大切な仕上げをするために、言葉や行為やあいさつで、温かい心や感謝の心、お別れの気持ちなど、自分の気持ちや考えをしっかりと伝え合うことで、卒業と進級に向けてバトンタッチのできる2月を、みんなで作っていきましょう。

これで、「温かい心」のバトンタッチの話が終わります。